



ナマケモノってどんな動物なの

一日のほとんどを木の上でねてくらす動物

中央アメリカと南アメリカの、熱帯雨林の高い木の上でくらす動物です。動きがとてもおそく、このことで敵に見つかりにくく、省エネをすることで生きのびています。

実際、木の上にいるナマケモノは、見つけにくいものです。ほとんど木の上でくらし、前足の長いつめを木の枝にひっかけて移動し、植物の葉を食べています。

地上におりるのは1週間に一度くらいで、しっぽで穴をほり大量のふんをします。

ミツユビナマケモノとフタユビナマケモノがいる

前足のつめが3本のミツユビナマケモノ、2本のフタユビナマケモノがいます。ミツユビナマケモノはおとなしい性質で、主に昼間活動します。フタユビナマケモノは夜行性で、動作は少し活発です。

筋肉はふつうの動物の半分しかない

同じ大きさの動物と比べて、筋肉はふつうの動物の半分しかありません。その分、体重も軽くなっています。1日の大半(21時間)、眠ってすごします。毛にはある種の藻が育っていて、それをえさとするこん虫がすんでいます。(監修・今泉 忠明)

